

和地ひとみレポート No.68

平成24年東大和市議会第4回定例会 一般質問『市民への情報提供について』 市民にやさしい情報提供が市民との信頼関係、協働の第一歩



■情報公開は市民協働の第一歩だが

…12月4日から開催されているH24年東大和市議会第4回定例会において、和地ひとみは以下の2つのテーマについて一般質問をおこないました。

- ① 市民への情報提供について
 - ・東大和市の情報公開の考え方について。
 - ・東大和市の情報公開の現状について。
 - ・リニューアルしたホームページ(=以後 HP)について。
 - ・災害発生時の情報提供方法について。
 - ・コミュニティFMについて
- ② 街づくり条例の運用について
 - ・条例施行から2年たった現状について。
 - ・開発について。

…①の「市民への情報提供について」は、前回の定例会の一般質問で和地ひとみを取り上げた「市民との協働」について、真の意味での市民協働を実現するためには「徹底した情報の開示が必要である」との考え方、「タウンミーティング等の機会を捉え、市民や様々な団体と意見交換し、市からも行政に関わる情報を積極的に提供し、情報の共有化を図りながら、市民との協働による行政を進めていく」との取り組み姿勢が市長から述べられたため、情報公開の考え方や課題について確認することにしました。

…現状の市からの情報公開については即時性、公平性など課題があり、幅広い層の多くの市民が市政に関心が持たず、様々な「気づき」からの市民の有効な意見が出てこない状況と考えます。また、情報の重要性の増す災害時における情報提供についても課題があると考えているため、質問のみならず、提案も含め今回はこのテーマを取り上げました。

■東大和市の情報提供の現状は

…まず、東大和市の情報公開の考え方について確認。市民協働を推進し、市民と共に歩む市政運営を目指す当市においては、今、市政はどのようなことを審議しているのか、どのような変化が起きているのかを市民に公開し、情報を共有化することが重要と考えているという答弁があった一方、市の保有している情報についてはプライバシーや個人を特定できる要素を含んだ情報も多いため、公開することで不利益が生じてしまう危険性もあり、慎重な取り扱いをしているとのことでした。

…また、現在の市民への情報提供の方法としては、月に2回発行している市報、公式HPでの市政の状況や制度改正、イベント情報の公開。また、テーマごとに地域に出向いて実施している市長と語り合、各種事業の市民説明会、市の職員が講師として出向く多摩湖塾などが情

報公開の良い機会になっているとの答弁がありました。…その他、災害時における情報提供については『東大和市地域防災計画』に定められている「防災行政無線」「広報車」「臨時広報誌(かわら版)」「公式HP」「安全安心情報サービス」「エリアメール」を活用とのこと。

…しかし、「市報」「HP」での情報公開については即時性が、「防災無線」「広報車」「職員などが出向く」という方法では普遍性や正確性が維持されているとは言いがたいと思います。エリアメールになって初めて文字で正確に手元に届くということになりますが、これについても高齢者、目の不自由な方など情報格差についての対策が取られているとは言えません。

…他自治体の職員には市民の問合せに対し「ホームページに書かれています」と発言をする方もいるとの話を聞きますが、これでは、本当に市民に伝えたい、伝える必要があるという考えに立っているとは考えられません。東大和市においては、現状を改善するとともに、市民への情報提供の意義や意味を考え、積極的に取り組んでほしいと提言しました。

■リニューアルしたホームページは

…平成12年に開設された市のHPは毎月2万件から3万件のアクセスがあるとのこと。今年11月にはリニューアルされ、市民からも「見やすくなった」「レイアウトが整理されて良い」という声もあるとのこと。HPは市民への情報源として重要と考えており、今回のリニューアルは「今まで以上に多くの人に探しやすい、わかりやすく情報を提供する」ことが基本コンセプトであるとの答弁があったものの、リニューアルにあたっては市民の声を聞き、反映させるという取り組みはなく、職員で構成したHP検討委員会の意見でリニューアルをしたとのことでした。また、市の施策を反映させた内容になっているかとの問いには、観光施策のみが反映されているとの答弁。先日のプレ国体でボランティアの集まりに苦勞したことや、市の協働を進めていきたいという市の考えを考慮すると、ボランティアなどの市民参加の情報へのアクセスは困難な構成のままになっていると思います。また、市民との意見交換が重要という点では、市民の意見を公開する場はありません。その点についての答弁は、今後、HPに付帯しているアンケート機能を使用して、市民の声を拾っていききたいとのことでした。

■コミュニティFMの可能性は

…平成4年に制度化されたコミュニティFM。地域の情報発信拠点として期待され、全国に260余りの放送局が開設されています。多摩地域では立川市、武蔵野市、調布市、西東京市の5市で開設。(裏面へつづく)

…当市ではコミュニティ FM のメリットをどのように考えているかを確認したところ、市販のラジオで気軽に聞けることから、住民にとっては大きな情報源になること、災害時や緊急時にリアルタイムで停電や断水の状況、救護活動の状況などをきめ細かく情報提供ができることを挙げられました。しかし、一方で、開局にあたっては民間、自治体出資の第三セクターが事業者になることが多く、費用について持ち出しが多くなるなど経済的なデメリットがあると考えているとの答弁でした。

…以前、和地ひとみが視察した秋田県の横手市では商工会などが中心となりコミュニティ FM を開局。朝と昼に市が放送枠を購入し、市政の情報を流す一方、市長の所信表明などの議会の重要な場面はライブ放送。また、自然災害や停電などの情報は緊急放送ですぐに対応するなどしているとのこと。老若男女問わず、多くの市民が情報をキャッチできるツールとして有効な FM ラジオは、日常的に市の情報を知り、市に興味関心、親しみを覚えるための効果だけではなく、災害発生時には大きな力を発揮します。現状の災害時の市民への情報提供の手法では、道が寸断された際には機能しなくなる方法が多いのが実情です。また、避難所以外の神社の社務所などに集まっている市民にはかわら版は届かない可能性もあります。そして口伝いでは、情報も不確実になる可能性が大了。…非常持ち出し袋に入れる必須アイテムとしてのラジオ。そこで、市の情報が受け取れば、市民にとっては大きな安心になります。

そこで、東大和市のコミュニティ FM の開局の可能性について確認すると、現在、FM 立川と災害時の協定を締結する方向で話をすすめているとの答弁がありました。まずは災害時対策からスタートし、様々な情報が気軽に市民の手元に届くコミュニティ FM を積極的に活用する方向で取り組んで欲しいと考えます。

■情報政策の基本は「市民にやさしい情報政策」

…情報政策の基本は「市民に気付く権利を保障すること」「知る権利を保障すること」「(情報を知って行動を)起こす権利を保障すること」「不確実性を低減するための情報環境を整えること」「補完性を発揮するための制度を整えること(これは問題、疑問が起こった際、より身近なところから解決方法を探し、徐々に上位に情報を求めるということ)」とされ、一言で言うと「市民にやさしい情報政策」が基本とされています。

…以前、ここでも取り上げた「市の事業評価を市民を委員とした外部評価」。そこでの評価委員の意見にも「委員として説明を受けたことで知ったことが多くあった」「市の事業の概要が体系的に把握できれば、市民の意識も変わり市に何を求め、市民として何をすべきかが明確になる」という真摯な意見がたくさん出ていました。市も市民と対極にあるという前提と思われるような情報の提供を卒業し、市民とより信頼関係を深められるような情報提供となるよう、向上に向けて様々なことを行って欲しいと考えます。そして、市長の考える透明性の推進を推し進めていただきたいと思います。

■東大和市の選挙結果

【衆議院小選挙区】		【衆議院比例代表】			
(当)木原 誠二(自由民主党)	16,163 票	1 自由民主党	9,355 票	7 日本未来の党	2,416 票
2 加藤 公一(民主党)	11,020 票	2 日本維新の会	8,286 票	8 社会民主党	897 票
3 野田かずさ(日本維新の会)	8,876 票	3 民主党	7,178 票	9 新党改革	580 票
4 池田真理子(共産党)	5,230 票	4 公明党	6,081 票	10 幸福実現党	88 票
無効票	1,899 票	5 みんなの党	4,011 票	無効票	744 票
		6 日本共産党	3,561 票		

【都知事】

1 猪瀬直樹 28,632 票 2 宇都宮けんじ 6,093 票 3 松沢しげふみ 3,982 票
 4 笹川たかし 1,194 票 5 中松善郎 777 票 6 吉田重信 444 票 7 クマ 290 票 8 マック赤坂 225 票
 9 五十嵐政一 235 票 無効票 1,133 票

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。/同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、新人東大和市議会議員として、日々、奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
 ✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
 〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102